

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	江戸川区篠崎児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 17日		～ 2025年 12月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	119	(回答者数) 52
○従業者評価実施期間	2025年 11月 17日		～ 2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 31
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【適切な支援の提供】 ・お子さまと保護者のニーズや課題を客観的に分析の上、支援計画を作成している。 ・アセスメントを通じて、お子さまの特性などに応じた専門性のある支援を提供している。	・専門職によるアセスメントを定期的に行い、保護者との共有や支援に活かしている。 ・モニタリング会議を通し、関係者同士の共通理解を図っている。	・アセスメント項目の細分化し、より精度の高いニーズ分析を行う。 ・担当職員、専門職、保護者と連携を強化し、専門性の高い支援の安定提供を行う。
2	【関係者や保護者との連携】 ・保育所、認定こども園、幼稚園、就学先の小学校間の情報共有と相互理解を図っている。	・保育所、認定子ども園、幼稚園等との間で行動観察や保育所等訪問支援等の連携を行っている。 ・就学先の小学校と就学引継ぎ会を行っている。	・保育所、認定こども園、幼稚園との密な情報共有を徹底し、生活場面に直結する一貫した支援を実践する。
3	【適切な支援の提供】 ・多職種連携ができる環境にある。	・専門用語ではない言葉を使って、お子さまの様子を伝える事を心がけている。 ・活動の振り返りの時間を設けている。 ・SV制度を設けており、個別療育や集団療育に対して適宜アドバイスを受けながら支援を提供している。	・キャリアやスキルの差を埋めるべく、さらに研修を積み重ねる。 ・多職種による客観的分析を行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【保護者への説明等】 ・保護者同士の交流の機会が少ない。	・保護者会は年二回開催だが、時間の制限があり保護者同士の交流の機会としての機能は低い。 ・療育時間内に保護者同士の交流の時間は少ない。	・自由参加の交流会やペアレントトレーニングの開催、座談会、勉強会での情報共有など、気軽に参加できる場を検討し、保護者の心理的負担を減らし、相談しやすい環境を整える。
2	【非常時等の対応】 ・再発防止に向けた方策の検討が不十分。	・ヒヤリハットが起こった際には、報告書の作成、情報共有を行っているが、再発防止に向けた方策の検討が不十分。	・再発防止を検討するための会議の場を設ける。 ・具体的な再発防止策をマニュアル化し、即時反映して事業所内で共有する。 ・事故防止、ヒヤリハット研修の場を設ける。
3	【インクルージョン】 ・兄弟児に対する支援や、地域の子どもと関わる機会が設けられていない。	・ご家族参加のイベントを実施したが、定員が限られており、一部の方のみのご参加となった。	・ご家族参加イベント開催回数を複数化しより多くの方にご参加いただける機会を設ける。 ・地域の子どもと関わる催しの実施を検討する。 ・兄弟児参加イベントや交流会について、引き続き検討を重ねる。